

助成事業実施報告書

団体名 NICE URBAN 泉中央自治会

代表者・役職名 氏名 自治会長 佐竹洋一



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ナイスアーバン泉中央自主防災訓練

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2012年3月に設立し、会員相互の親睦及び福祉の増進を図り、地域課題の解決等に取り組むことにより、住みよい地域社会の形成に資することを目的としています。具体的な活動は、花壇の整備・維持管理、防災・防火・交通安全、災害発生時の応援協力及び防災訓練の実施、高齢者ゴミ捨て支援などです。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

宮城県沖地震の発生が予想される中において2011.3.11東日本大震災が発生しました。3.11をきっかけにマンションのみで自治会を充足させ、毎年自主防災訓練を実施してきました。訓練の積み重ねにより自助・共助・公助が重要という認識を持ち、希薄化した地域コミュニティの活性が減災に繋がる必要性を感じ、継続した自治会防災訓練の実施が必要とされています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

当自治会会員はもとより、地域住民及び連合町内会と連携し、2020年秋、当マンション敷地をメイン会場に防災訓練を実施。災害を想定し、階段を使用した避難訓練、各階担当者による安否確認、対策本部の設置、非常食の配布及び炊き出し訓練、災害用資機材の展示や発電機の作動など3.11の被災した住民だからこそ可能な、より有事に近い訓練を実施しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの「効果」 300文字程度まで

結果 56世帯約100名の参加者 成果 顔見知りの関係の構築による防犯等の抑止効果及び継続した訓練の実施による有事の際の共助の重要性の認識を図られました。
社会的な変化 マンションという特殊な住空間においてエレベータを使用せず、マニュアルに従い、実施した訓練により他のマンションの模範となったものと自負しています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回は、コロナ渦ということもあり、二回に分けての避難訓練でしたが、仙台市防災認定マンション最高ランキングとして、他の模範となるような防災訓練の継続と連合町内会との連携を強化し、持続可能な活動としたいと考えています。また、訓練そのものがマンネリ化しないようメニューにバリエーションを加え、緊張感を持ちながら、訓練の実施を継続していきたいと考えています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。 参考資料あり ・ 特になし